

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西成区
学 校 名	南津守小学校
学校長名	高松 幸織

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南津守小学校では、第6学年 60名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校の平均正答率は、国語で大阪市平均を12ポイント、全国平均を13.8ポイント下回った。算数では大阪市平均を11ポイント、全国平均を11ポイント下回り、理科では大阪市平均を16ポイント、全国平均を18.1ポイント下回る結果となった。

いずれの教科においても全国・大阪市の水準に届いていないことが明らかになった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「情報の扱い方に関する事項」では、大阪市の平均正答率との差が0.8ポイントと比較的少ないが、「書くこと」の設問では大阪市の平均正答率との差が16.3ポイントと大きく開いており、書くことへの苦手意識が依然として課題である。

〔算数〕

「図形」の設問では、大阪市の平均正答率との差が1.6ポイントと比較的少ない。一方「数と計算」領域では、大阪市の平均正答率との差が13ポイントと下回っており、四則計算の流暢性を高める必要がある。

〔理科〕

どの領域においても、大阪市平均を下回る結果となった。無答率が高いことが課題である。

質問調査より

- ・「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に肯定的に答えた児童は91.2%で、大阪市(90.4%)や全国(91%)と同程度で、おおむね規則正しい生活習慣が身についているといえる。
- ・「自分にはよいところがあると思う」に肯定的に答えた児童は68.5%で、大阪市(86.5%)や全国(86.9%)より下回っており、自己肯定感の向上が課題である。しかし、「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童は91.2%で、児童の活力や他者への貢献意識は高い。こうした意欲を自己肯定感向上の取組に繋げたい。
- ・「PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成したり、文字・コメントを書いたりできると思う」という質問では、肯定的回答が40%で、大阪市(79.8%)、全国(81.8%)に比べて大幅に下回った。授業でのICT活用や操作スキルの定着をめざした取組が必要である。

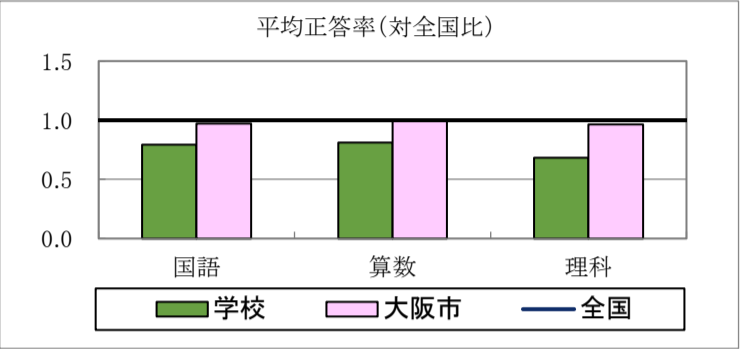
今後の取組(アクションプラン)

- ・四則計算の定着に向け、自分の成長が実感できる形式で日々の計算タイムを実施する。
- ・根拠をもって考えたり表現したりする力を育てるため、自主学習のポイントを共有し、内容の充実を図る。
- ・児童自身がICTを活用する時間を増やすため、アンケートや表現する活動などにICT機器を積極的に使う。
- ・各教科の学習で、考えを交流し学びを深めるため、話し合い活動の時間を増やす。
- ・他者への貢献意識と自己肯定感を高めるため、行事やたてわり班活動、委員会活動等で児童が主体的に活動するよう働きかける。

【 全体の概要 】

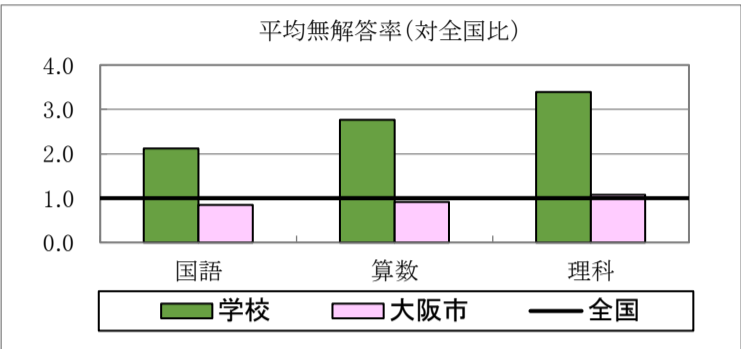
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	53	47	39
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	7.0	10.0	9.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

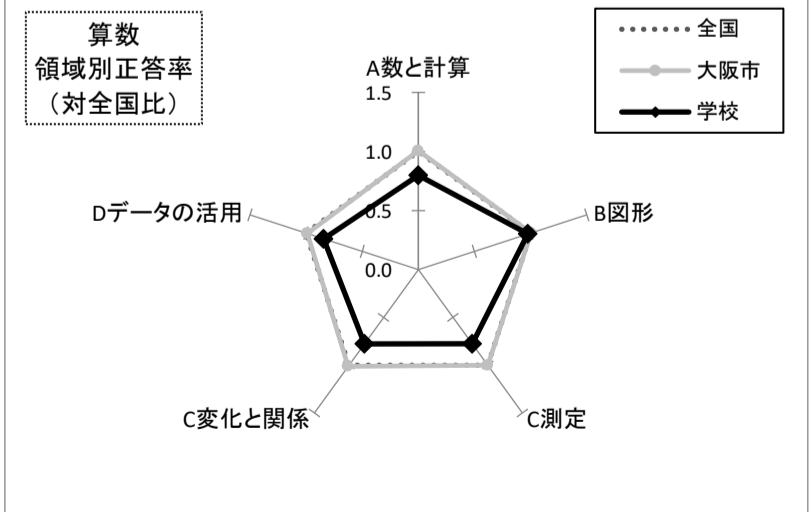
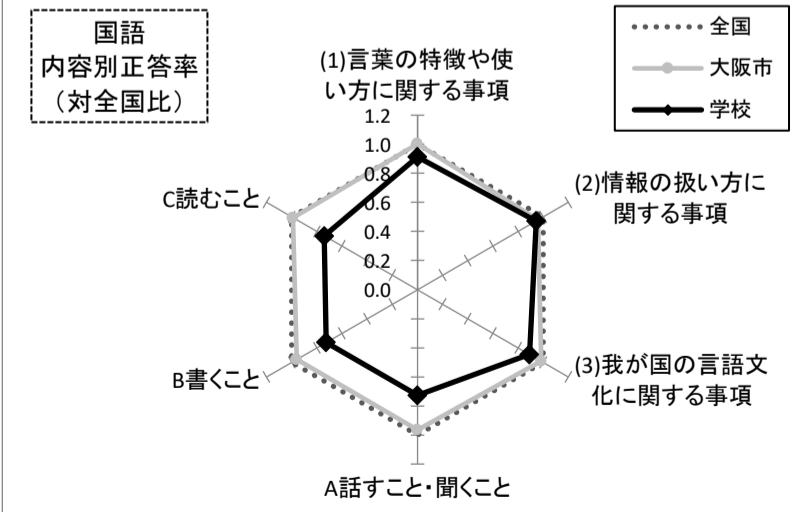
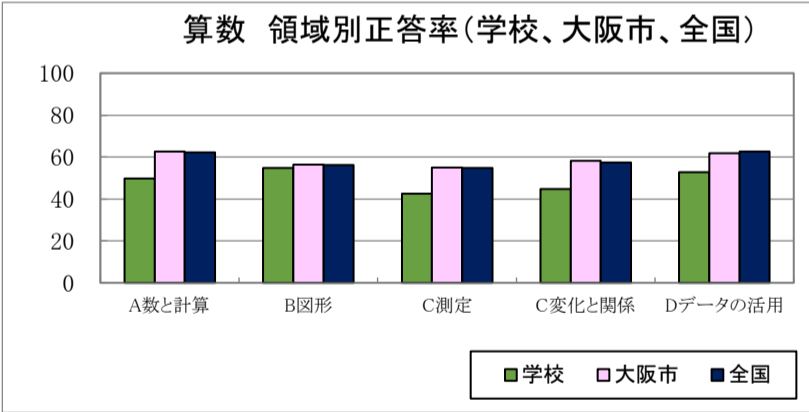
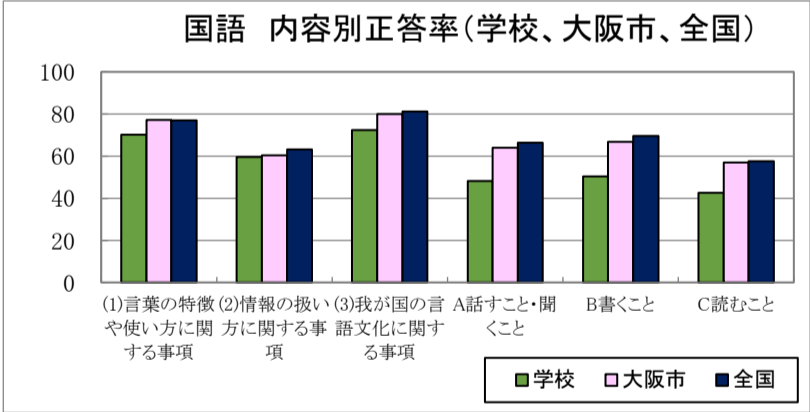


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	70.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	72.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	48.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	50.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	42.6	56.9	57.5

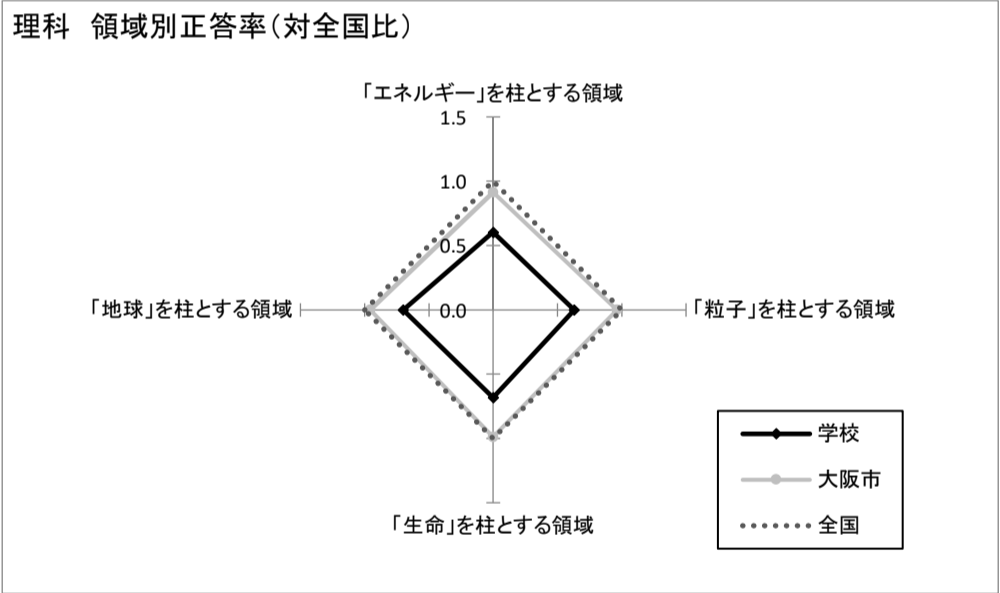
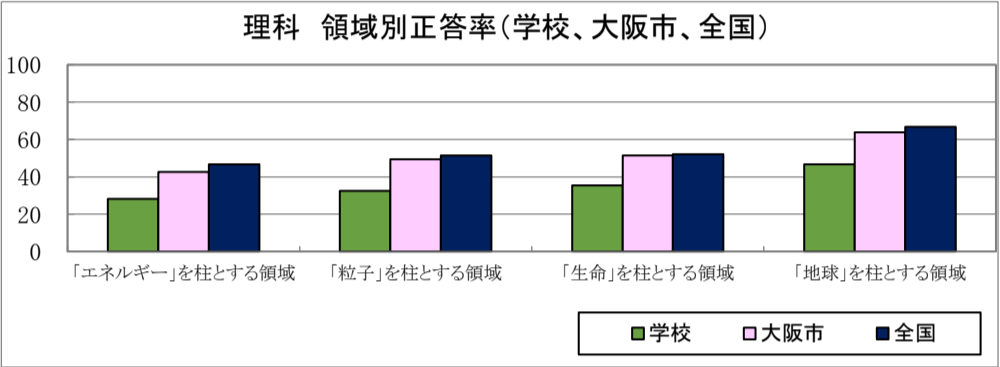
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	49.7	62.7	62.3
B 図形	4	54.8	56.4	56.2
C 測定	2	42.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	44.7	58.2	57.5
D データの活用	5	52.8	61.9	62.6



【 理科 】

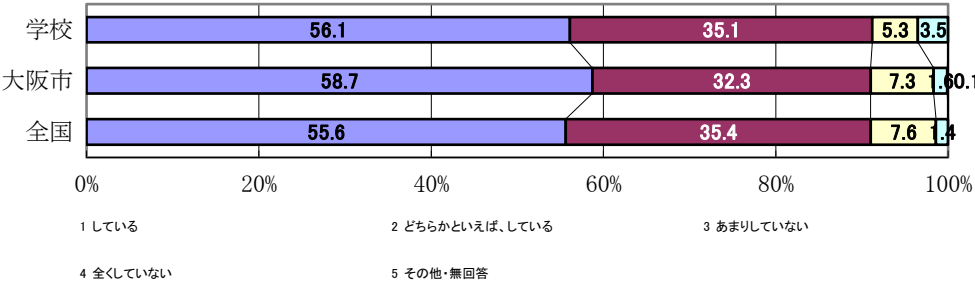
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	28.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	32.4	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	35.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	46.7	63.8	66.7



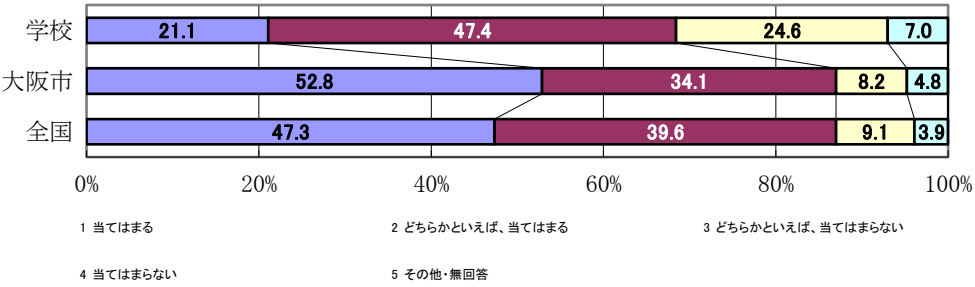
児童質問より

質問番号
質問事項

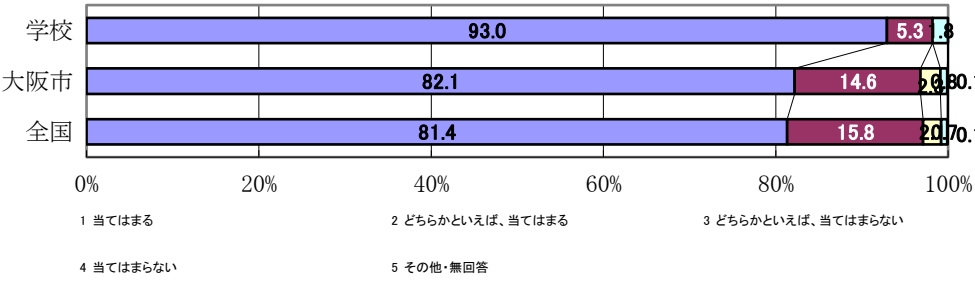
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



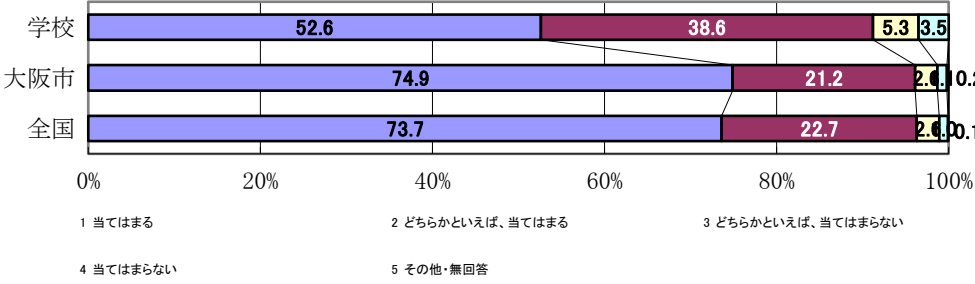
5
自分には、よいところがあると思いますか



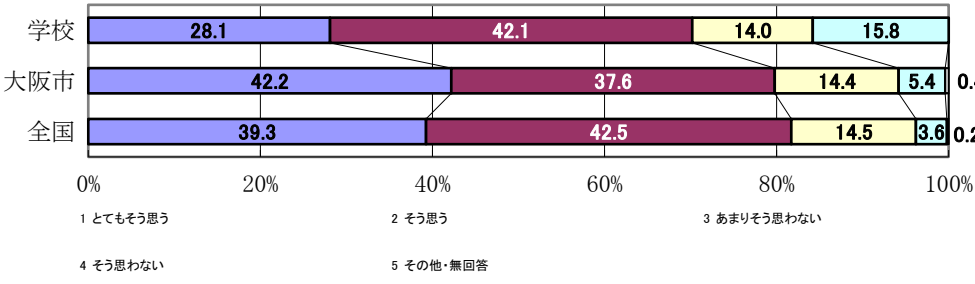
9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



72
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか

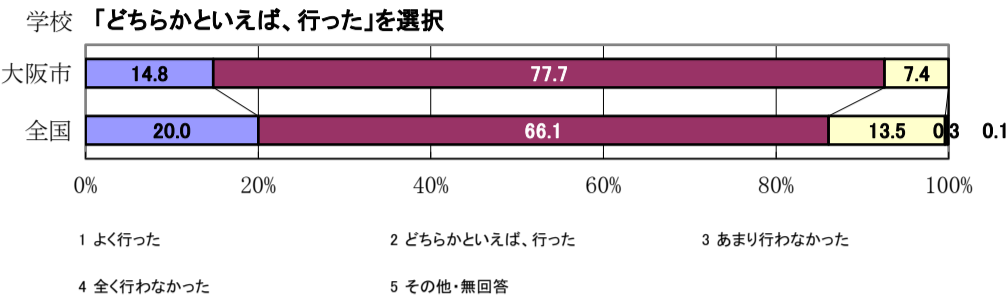


学校質問より

質問番号
質問事項

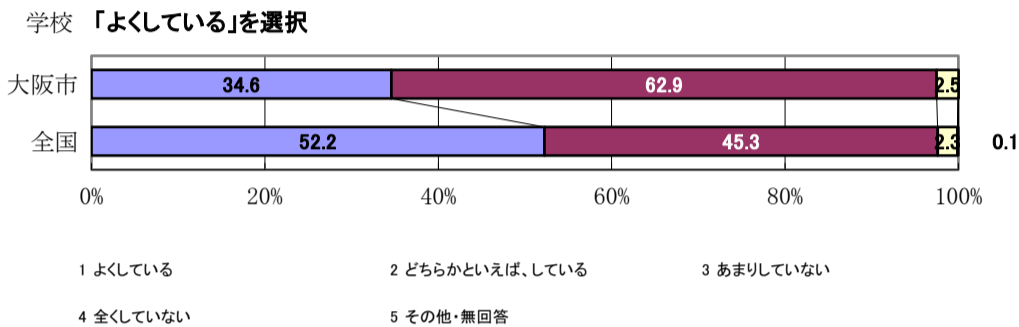
9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



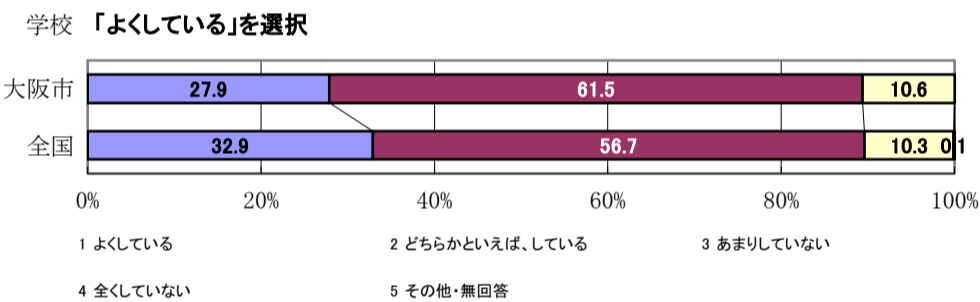
16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



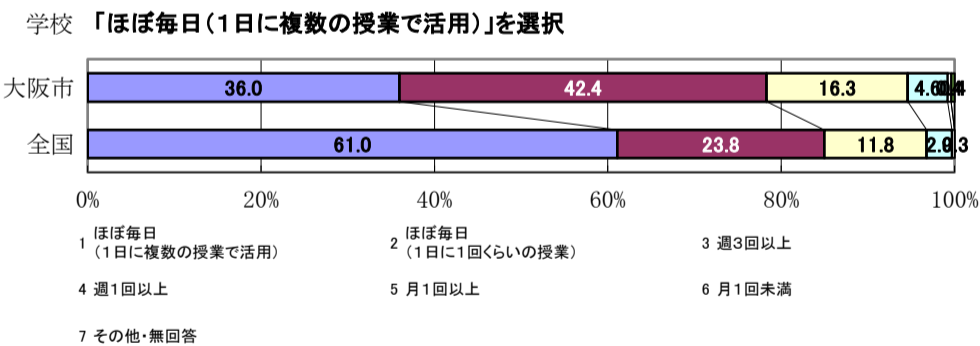
19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

